



太田好紀先生

日本麻酔科学会第 62 回学術集会にて最優秀演題賞を受賞

平成 27 年 5 月 28 日から 30 日まで神戸で開催された日

本麻酔科学会学術集会におきまして、当科、太田好紀講師が

最優秀演題賞を受賞しました。今回で 62 回目を迎えた本会は、

会員数 11,967 名 (H27.6.17 現在) を超える麻酔科学分野で最

大規模の国内学会であり、学会期間中は神経・循環・産科・

ICU・呼吸等多岐にわたる領域の麻酔科医が一同に会し、学際

的な成果発表や情報交換が活発に行われました。厳しい審査を

通過したおよそ 900 の一般演題の発表が行われ、その中から厳

選された**最優秀演題賞**は、麻酔科学領域での国内最高賞と位

置付けられます。

今回の受賞にあたり、研究を直接指導されてきた森本剛教授より、本研究の novelty とその意義について受賞の経緯を含めてコメントを頂きました。

原因が明らかではない症候や複合した病態を扱う総合診療医にとって、治療のための薬物治療によって引き起こされる体調の変化（薬剤性有害事象）を適切に把握することは極めて重要です。これまで薬剤性有害事象がどのくらい発生し、どのような患者に発生しやすく、患者さんの予後にどう影響するか、ほとんど分かっていませんでした。JADE Study は様々な診療環境における薬剤性有害事象の臨床疫学を評価していますが、今回太田講師は集中治療専門医という背景を生かして、集中治療室における薬剤性有害事象の実態に加えて、入室時の重症度との関係や入室中の予後との関係を分析しました。複雑かつ重篤な病態にある集中治療室の患者さんについてこのような視点で分析されることはこれまでにあまりなく、今回の受賞につながったのだと考えています。引き続き、太田講師や次世代の総合診療医には、このような幅の広い症候・病態に関する研究を期待しています。

臨床疫学教室 教授 森本剛先生